

世界の光

2012年12月22日 アシェル・イントレーター

1. 今週はハヌカとクリスマスとの間の週です。私たちメシアニックジューはいくぶんか靈的にも文化的にもこの二つの間に「とらわれて」しまっています。エルサレムにある私たちのコングリゲーション、アハヴァット・イエシュアにおいて、私は、イエシュアは世の光であり神殿の燭台との関連について教えました。

2. メシアの誕生日について私たちは知りません。[ある者はその日を祭司の当番であるアヴィヤ組の月(ルカ 1:5、I 歴代誌 24:19)からエリザベツの妊娠、そしてミリアム(訳注: マリア)の妊娠から(ルカ 1:24)、仮庵の祭りであると計算しました。この日はイエシュアが「仮庵となって」私たちの間に住まわれたという事に付加価値を与えてくれました。しかし、エルサレムでの仮庵の祭にあまりにも国際的な、そして地元の要素がありすぎて、その時にメシアの誕生を祝うのは難しいのです。]

3. ハヌカはクスレヴ(訳注: 第9月)の25日に始まります。クリスマスは12月25日です。創世記にある25番目の言葉はヘブライ語で「光」です。もしイエシュアが12月25日にお生まれになったのなら、主は1月1日に割礼(ルカ 2:21)を受けたこととなります。ハヌカの第8日目は、すべてのロウソクが灯されますが、それはテヴェットの月(第10月)の新月に起こります。それはヘブライ・カレンダーの最も暗い月の最も暗い夜に起こるのです。

4. 神は創世記1:3の、第一日目に光を創造されました。しかし、太陽と星々は第四日目まで創られませんでした。第一日目の光には物理的な創造を超えた靈的な重要性がありました。

5. この靈的な光は世界にやってくると預言されており、それは靈的な闇(イザヤ 9:1)に住む人々によって目撃されるというものです。この光は「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。」(イザヤ 9:6)の姿でやって来るといいます。この御子の光はすべての国々を覆う大なる靈的な闇のただ中に、終わりの時の栄光によって輝くある集団に広がります(イザヤ 60:1-3)。

6. 御子ー光はダビデの家系に生まれ、イスラエルの王となるために、そして教会の頭となるためにお生まれになり、この方こそイエシュアなのです! 主は世界の光です(ヨハネ 8:12、9:5)。神は創造時に語られ光を解き放ちました。そのことばは光でした。そのことばは神と共にはじめからおられ、そのことばと光と神はすべて一つなのです。イエシュアはことばであり、この世にやってきた神の光なのです。主を通して私たちは恵み、真理そしていのちを受け取るのです(ヨハネ 1:1-18)。

7. メノラー燭台(訳注: 七つの枝を持つ燭台)は、それがどう造られ、どう灯すのかトーラーに書かれています(出エジプト 25:31-40)。ゼカリヤ 4:2-3には、燭台にはさらなる預言的な象徴が与えら

れており、それはメシアを指しています(燭台とオリーブの枝は現代のイスラエル国章のベースとなっています)。祭司の象徴はトーラーに述べられており、その霊的な意味は新約聖書で明らかにされています。

8. 黙示録 1:12-20 において、栄光を受けたメシアは7つの黄金の燭台のただ中にたたずみます。燭台はある集団、メシアと共に栄光を受ける人々を表します。彼らはエクレスシア(教会)であり、聖徒たちの共同体、イスラエルのより拡大された連邦です。トーラーの象徴、預言者たちの幻、そして新約聖書の黙示録はすべて同じ聖書的なタペストリーの一部なのです。

9. ハヌカはマカベアの歴史を伝えます。彼らはイスラエルにおいてダビデの王国と清められた神殿での祭司の礼拝を回復させるために異教の王であるアンティオコスと闘いました。ただ、燭台の奇跡的な油(訳注:1日分の油で8日間灯り続けたというもの)の話は後のラビ文書に記録されています。王国と光というテーマには新約聖書には主要な重要性を持つものとしてとりあげられています。ハヌカという祝祭日については簡単にしか述べられていません(ヨハネ 10:22)。

10. メシアの誕生は世界の歴史の転換点となりました。それはユダヤの歴史にとってもそうであったことは言うまでもありません。イエシュアは世界の光なのです。初代の弟子たちの頭上に炎が降り注いだとき(使徒 2:3)、彼らは神殿の燭台の最初の成就となりました。世界が私たちを通してメシアの光を見るように、彼らの足跡をたどろうではありませんか。

規律または赦し

ロン・カンター

罪を犯した宗教指導者に対して私たちの態度はどうあるべきでしょうか。規律または赦しでしょうか。

最近、ある記事が掲載されました。ある宗教指導者が罪を犯し、回復プロセスに従いましたが、教会を立ち上げるためにそのプロセスから抜け出したというものです。記者はこの宗教指導者を裁いたり、指導を続けることを不可としないようにすべきだと述べています。

しかし、メシアの体として私たちはその状況に対して治め、規律をもたらすように召命を受けています(1コリント 6:1-11)。ある人が罪を犯し、悔いあらためた時、私たちは赦します。赦しには他に必要はありません。しかし、指導層にある者に対しては確かに必要条件と前提条件があります(1 テモテ 3)。それゆえ、ある者と赦すことと権威にある地位へ彼を回復させることには差があります。人々は赦しに、指導する者として認めることに混乱があります。私たちは自分の子どもたちが望ましくない行動をした後赦しますが、彼らのために彼らを罰するでしょう。私たちは罪を犯した指導者を

赦すことができますが、彼のためにと彼に導かれる者たちのために、使徒的指導層は規律をもたらさなければなりません。

規律のプロセスは制御することではなく、いのちと回復をもたらすのです。虐待や操作の場合、問題は赦しだけではなく、将来の虐待から傷を受けた者たちを守ることです。被害者は罪を犯した指導者と同様、回復される権利があります。赦しと規律は同じ回復プロセスの一部なのです。

祈りのリクエスト

ヨハネ・O、ローズ・D そしてヴァシク・K の癒やしのために
イスラエル政府の選挙の正しい結果のために
神のご意志がエジプトとシリアの内乱のただ中にありますように
アル・ハヤット TV とイスラエル・ハイ TV に対して実が多く実りますように
「アキバの果樹園」の本の読者が増えますように
ナザレのカトリック司祭であるヤブリ・ナダフ師が守られますように
ヤッド・ハシュモナの建築プロジェクトに突破口がありますように